

# Pink Ribbon Festival in Tsukuba 2013報告書



松見公園にて



# つくばピンクリボンフェスティバル 2013

Breast Cancer Awareness みんなで守ろう みんなの健康

～ピンクリボンウォーク&ラン～

タイムテーブル 2013年5月12日(日) 母の日

9:00	受付開始 / 常陽銀行研究学園都市支店南隣り特設会場
9:40	<b>開会式</b> 実行委員長挨拶 (森島勇) つくば市長挨拶 (市原健一) 茨城県ウォーキング協会会長挨拶 (堀野正勝) ボーイスカウトつくば第3団委員長挨拶 (八城健彰) ストレッチ指導 (鍋倉賢治・水谷理紗) ラン・ウォークの説明 (水谷理紗・川上清)
10:00	ウォーク 5kmコース出発
10:05	ラン 10kmコース出発
11:45 ~	ウォーク&ランゴール / つくば市大清水公園 啓発イベント 乳がんクイズ
12:15	<b>閉会式</b> 名誉大会実行委員長挨拶 (五十嵐徹也) 理事長挨拶 (植野映)
12:30	終了



スタート前 みんな揃って

発行：NPO 法人つくばピンクリボンの会

写真撮影：松浦正夫・実行委員

写真・画像・記事等の無断転載、無断使用をお断りします。

**主催** つくばピンクリボンフェスティバル 2013 実行委員会  
NPO 法人つくばピンクリボンの会 Tsukuba Pink Ribbon Coalition

**名誉大会長** 市原健一 / つくば市長

**名誉大会実行委員長** 五十嵐徹也 / 筑波大学附属病院長

**大会実行委員長** 森島勇 / 筑波メディカルセンター診療部門乳腺科

**共催** つくば市、茨城県保健福祉部保健予防課、茨城県医師会、茨城県乳癌疾患研究会、社団法人茨城県放射線技師会、公益財団法人茨城県総合健診協会、筑波大学附属病院、公益財団法人筑波メディカルセンター、公益財団法人日立メディカルセンター、一般財団法人茨城県メディカルセンター、特定医療法人つくばセントラル病院、総合病院土浦協同病院、医療法人社団筑波記念会筑波記念病院、取手北相馬保健医療センター医師会病院

**後援** 茨城県ウォーキング協会、公益社団法人茨城県看護協会、NHK 水戸放送局、財団法人研究学園都市コミュニティーケーブルサービス (ACCS)、土浦ケーブルテレビ株式会社 J:COM 茨城

**協賛 (順不同)** アストラゼネカ株式会社、株式会社アートネイチャー、池田紗智恵、社団法人石岡市医師会石岡市医師会病院、株式会社イセブ、一般財団法人茨城県メディカルセンター、岩佐医院、イーザイ株式会社、医療法人おおたしろクリニック、小野薬品工業株式会社、株式会社カスミ、協和発酵キリン株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社、医療法人社団新岳会研究学園クリニック、サノフィ株式会社、塩野義製薬株式会社、常陽銀行研究学園都市支店、杉谷メディカルクリニック、関彰商事株式会社、大鵬薬品工業株式会社、大和ハウス工業株式会社イーアスつくば、武田薬品工業株式会社、中外製薬株式会社、つくば学園ロータリークラブ、つくばシティロータリークラブ、土浦北ライオンズクラブ、土浦産婦人科、東芝メディカルシステムズ株式会社、東洋羽毛北関東販売株式会社、匿名、永田歯科医院、二の宮越智クリニック、日本イーライリリー株式会社、日本化薬株式会社、ノバルティスファーマ株式会社、久光製薬株式会社、学校法人広沢学園つくば歯科衛生専門学校、広沢グループ会長広沢清、ファイザー株式会社、ブリストル・マイヤーズ株式会社、前島レディースクリニック、NPO 法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会、株式会社ヤクルト本社、株式会社横山印刷、産前産後ケアサロン助産院ら・くな

**協力** 日本ボーイスカウト茨城県連盟つくば第3団、田中佐代子、山本美希、森の会 - 筑波メディカル・ピンクリボンの会、くるみの会、たんぽぽ会

## ♥ 受診率がアップしたよ！

植野 映

つくばピンクリボンの会理事長/  
筑波メディカルセンター専門副院長

つくばピンクリボンフェスティバルもこれで9回目です。今までの皆様の地道な啓発活動により、茨城県の乳癌検診受診率は徐々に上昇し、39.8%となりました。私たちが目標とする50%まであと3歩です。

乳癌の罹患率も上昇し、今では年間6万人の方が新



たに乳癌に罹患しているといわれています。これは13人に1人が一生のうち乳癌に罹ると考えられます。

茨城県では、全国に先駆けてマンモグラフィと超音波の画像診断による乳癌検診が行われてきました。しかしながら、乳癌の発見という意味では40歳以上の受診者には効果が上がっていますが、30歳代の発見率は40歳代に比べて低くなっています。これは、35歳以下の年代ではまた乳がんの発生は少ないためです。乳がんの脅威を35歳以下の女性にやみくもに与えることは避けなければなりません。今までの茨城県における乳がん検診システムでの実績をもう少し検証し、新たな乳がん検診システムを構築しなければならない時期に差し掛かっているといえるでしょう。現行の乳がん発見率を見る限りでは、40歳以上の県民にマンモグラフィと超音波による毎年の交互の検診が理想的だと思います。

今年は、家族性腫瘍が話題となりました。このことは今まで医学の世界では問われてきたことですが、アンジェリーナさんの予防的乳房切除により、より広く一般に知られるところとなりました。この遺伝が関与する部分は乳がんの5~10%程度ですが、今後の乳がん検診のシステムにも関連してまいります。30歳代の行政による乳がん検診は効率が低いことは前述いたしました。家族性に発生する乳がんは若い方に発症してくるのが特徴です。今後は、任意型も含め、家族性腫瘍にも配慮した検診をも考えていかなければなりません。(任意型の乳がん検診：行政が行う検診ではなく、自己負担で受ける人間ドックなどのプライベートな検診です。)

高齢者の乳がんの発生も少なくありません。しかしながら、超高齢者の無症状の乳がんを発見しても意味がありません。それは、早期の乳がんは放置しても命取りになるには5年あるいは10年以上かかるからです。超高齢者には他の医療が必要とされます。

今後の5年間は特に重大な転機となる時代です。皆様と乳がん検診のあり方をよく考え、乳がんによる死亡を少しでも減少させられるよう考えていきましょう。

## ♥ つくばピンクリボンフェスティバル2013 みんなで健康に！

森島 勇

2013実行委員長 / 筑波メディカルセンター 診療部門 乳腺科

2013実行委員会は、9回目を迎える今回のフェスティバルを5月12日(日)の母の日にウォーク&ランを通して啓発活動を行う方針と決定しました。ウォークは茨城県ウォーキング協会を中心に、ランは水谷理紗先生と鍋倉賢治先生を中心に盛り上げていこうという



ことになりました。そして、テーマは「みんなで守ろう、みんなの健康」としました。これには、乳がん検診の大切さを訴えるとともに、その基礎となる健康の大切さも訴え、ひとりひとりが健康に感謝して、ウォークとランを通してみんなで健康になろう、という意図をこめました。また、ポスターは昨年と同じで、筑波大学大学院芸術専攻の山本美希さんデザインによるバルーンを背に闊歩する躍動感あふれる女性の絵と決めました。

企画決定から半年間、あつという間に当日を迎えることになりました。心配していた天気でしたが、朝には雨も上がり、さわやかな晴れとなっていました。このフェスティバルに関係するみんなの熱意が通じたものと思われました。当日の物品搬送、バルーン作成、受付設営、駐車場誘導と多くのスタッフの協力のもと準備が完了し、無事スタートを迎えることができました。そして、本主旨に賛同して下さった数多くの方々に参加をいただくことができました。また、母の日のお母さんへの感謝の一環として、お母さんに乳がん検診を受けてもらいたいという意味で、ボーイスカウトの皆さんに参加していただいたのは、いい啓発になったと思います。暑い日差しの中でしたが、5キロウォーク・10キロランともに、健康への感謝をかみしめつつ、テーマどおりにみんなで完歩・完走できたことは、大変うれしく思います。

さて、「精度の高い乳がん検診を、みんなが受けると、乳がん死亡が減る」という図式があります。茨城県の乳がん検診受診率は39.8% (平成22年度)まで上昇してきました。国が設定した50%以上には、あともう少しです。乳がん検診は受けるのが当たり前、受けないのはもったいないというのが常識となり、「つくば市・茨城県が検診受診率50%達成の国内第一号」さらには「乳がん死亡が減少した」とニュースになる日が来るよう、さらには啓発活動そのものが不要になる日をめざして、このピンクリボン活動を続けていきたいと思ひます。今回のフェスティバルをきっかけに、一人でも多くの方が、乳がん検診を実際に受けていただければありがたい

と思っています。

最後になりましたが、このフェスティバルを支えてくださった後援、協賛、ボランティア、ご協力くださいましたすべての関係者の皆様に、こころより感謝申し上げます。ありがとうございました。

## ♥ ピンクリボンフェスティバル ウォーク

川上 清

茨城県ウォーキング協会

ピンクリボンはいつも快晴だ。それで90パーセントは成功になる。あと10パーセント分を頑張ろう。私と共に水戸から9名、県ウォーキング協会からさらに個人の会10名、牛久ウォーキングクラブ6名、藤代歩々えみ会11名が率先参加して計36名がこの日のスタッフだった。コース距離は5キロ一本と決められていたが、その5キロへの対し方には差がある。2組に分け、SUISUI組とゆっくり組に分けて、筑波メディカルセンター折り返し組と松見公園折り返し組に分け、ゆっくり組はベビーカー、幼児や小学低学年の混じる組を想定した。コースはスタートしてすぐペデステリアン道に入った。学園内に南北に伸び、県ヘルスロードにも指定された学園を代表する素晴らしいコースを歩くのが誇りだ。ゆっくりあわてず歩こうと呼びかけ、二つの組が出会う場所と考えた松見公園藤棚の入口へ、両組先頭はぴったりと出会うことができ、そのまま公園に入って休憩とした。トイレ万全、池には鯉の大群、中央に向けてやや傾斜地芝生に栓抜き型展望台の立つ素敵な公園が休憩地。しかし先約組がいてそこそこの休憩で、帰路はSUISUI、ゆっくり両組全員が混じって和気藹々とゴールに向かった。この日はつくばフェスティバルの日でコース中央部は特ににぎやかだったが、スムーズに全員がコースに向かうことができ皆満足だったろう。予定の11時45分には大半がゴールし、完歩賞とプレゼントにこの日2度目の水を受け取り、続いて開かれた乳がんクイズに知恵を絞った。スタッフもまずまずの役割を果たせたと思う。(待つ間にランの一行もゴールした。)



## ♥ ピンクリボンフェスティバルへの参加

八城健彰

日本ボーイスカウト茨城県連盟 つくば第3団 団委員長

私たちボーイスカウトつくば第3団は発団10周年を迎えようとしております。

発団当初より、つくば学園ロータリーの支援を頂いており、会員の皆様のご案内により2007年、初めてピンクリボンフェスティバルへの奉仕参加のご案内を頂き、以来参加をさせていただいております。

私たちボーイスカウトの活動の大きな目的の一つである社会奉仕の良い機会であり、かつ、5月の「母の日」、幼稚園児から大学生に至る隊員にとって大切な「お母さん」への日頃の感謝と健康への祈りを心から願い、改めて日頃の感謝をささげるにふさわしい日であり、タイムリーな奉仕活動として、今年も約90名の参加をいたしました。ピンクリボンフェスティバル委員会の皆様には改めて感謝申し上げます。

スカウト達のお母さんのみならず、世の中すべてのお母さんに感謝するとともに、日頃考えることのない子供たちがもし今、お母さんがいなくなったら…と、思う機会に、そして、健康が当たり前と思って過ごしているお母様たちへの「もし私が…」と思う機会にしたいとの願いを込めてウォーキングに参加しております。

五月晴れの新鮮な空気と新緑の中、ボーイスカウトが早朝より膨らませ準備したピンクバルーンを片手に母と一緒にウォーキングは最年少のビーバースカウト親子にとって、実にほほえましいものです。

今後ともこのフェスティバル、ピンクリボン活動により多くのお母さんたちが、自身の健康を大切にされるよう心から願うとともに、ピンクリボン委員会の皆様のより一層の普及活動の工夫向上と継続を祈念いたします。



## ♥ ランを振り返って

東野 英利子  
ラン(救護)担当

つくばピンクリボンフェスティバルの関係者にはランナーもいて、去年は行われなかったランを再開して欲しいという要望があり、今回また行われました。ランにはランナーのみならず、周囲の方にも危険が伴うので、かなり慎重な計画のもとに行われたと思います。まずは距離およびコースの選定ですが、10km(実際には11km位あったかもしれません。)2時間という予定時間、およびコースはよかったと思います。とくにコースは最初のつくば中央公園の横が同時に開催されたつくばフェスティバル2013で通りにくかったことを除けば歩道も広く、また研究学園前公園は休憩にもってこいでした。参加者を事前登録制にしたために35名で顔見知りも多く、和気あいあいとした雰囲気でした。2時間あれば十分だったのですが、出発が遅れたので、その分到着が遅れました。次回はその辺を考慮する必要があるかと思いません。

ピンクリボンフェスティバルのランは走るだけでなく、キャンペーンなので、イーアスでは外周の歩道ではなく内部および駐車場を通ったのはよかったと思います。ただここでのアピールが今一つでした。次回は風船を持って行って、差し上げるなどのアピールをしたいと思います。

救護担当としては救急箱の出番がなかったことが最もよかったことです。私の知る限り、転んだ方もいませんでした。今回は小人数で、しかもベテランが多かったので、大丈夫でしたが、もっと広く参加者を集める場合には安心は禁物と思います。最後尾には自転車で一人着くこと、カメラマンも自転車で移動し、必要に応じて連絡係となる、という構成がよいと思います。

好天に恵まれ、私もランを楽しむことができました。ありがとうございました。



水谷 理紗

昨年度のピンクリボンフェスティバルでは、5kmと10kmのウォークの部のみで、ランが正式なイベントとして存在していませんでした。心地よい秋晴れの空の下、心も快晴。歩くだけでは物足りず、筑波大学附属病院病院長の五十嵐先生とともに10km(+5km)を走り通したところ、実行委員会の皆さんから「今年はランの部を担当しないか」と声をかけていただき、今回引き受けることになった次第です。



強烈な晴れ女(晴れ男)が参加していたのでしょうか。前日までの雨予報は外れ、気持ちのよい初夏の青空が広がった母の日。

ランには35名のランナーたちが参加してくれました。後方からは、自転車にのったスタッフがサポートしてくださり、万全の体制で臨んだ10km。

目標は「誰もけがすることなく、みんな笑顔でゴールできるよ」と定め、皆が足並みをそろえてゴールできるよう配慮しました。

予想以上に気温が高く、数回の水分休憩を挟みながら、つくばのメインストリートをたくさんの風船を持って走り回ることができました。

元気の有り余る小学生たちには、少々物足りなさが残ったかもしれませんが、おかげで一人も脱落することなく、けがすることなくゴールできたことを大変うれしく思います。

大型市民マラソンの創設や健康志向の高まりを背景に、空前のランニングブームが巻き起こっている現代日本です。いつか、乳癌の啓発運動とチャリティをかねたマラソン大会を開催するという夢に、ひそかに胸を膨らませているこの頃です。

閉会式では植野映先生より、茨城県の乳癌検診受診率が39.8%であることが発表されました。8年前の平成17年は6.7%、4年前の平成21年には10.2%であったことを考えると、ここ最近では飛躍的に受診率が上昇しています。

つくばピンクリボンの会の活動が、年々地元で根付いていることを実感します。



来年はピンクリボンフェスティバルも10周年を迎えます。今後もこの活動がさらに広がりますよう、心から応援しています。

## ♥ つくばピンクリボンフェスティバルに参加して

永田 修

天気予報で雨マークが直前までついていたのでお天気が心配されましたが、晴天にも恵まれ無事開催でき本当に良かったです。

私は2回目の参加ですが皆さん慣れた方が多く、また一人一人が積極的で思考を凝らしたアイデアを出し合い、すぐ実行する行動力にただただ感心するばかりでした。引っ張って頂きながらのお手伝いとなりましたが、とても楽しませて頂きました。

ももとは「すべては患者さんのために」を心に医科歯科連携の別の活動をしていましたが、楽しく市民に検診の大切さを知っていただくとする活動が以前からある事を知り、末席におじゃま致しました。

ウォークラリーは「乳がん検診」の大切さを広く知っていただくばかりでなく、歩く事の楽しみを知ってもらい、体重管理と軽度の運動が乳がん予防にもつながるとも理想的な活動になっていました。また、参加されている方が皆笑顔である事こそが、この会が築き上げてきた形なんだと参加しつつ感銘していました。

つくばにいる方・いらっしゃる方・ふれあうすべての方が笑顔を失うことのないよう、今後もこの活動が活発に続くよう微力ながら関わっていきたく思います。実行委員長はじめ実行委員の方々、ボランティアの方々、本当にお疲れ様でした。参加された皆さま、ありがとうございました。

池田 紗智恵

私がこのフェスティバルに参加するのは今回で2回目となります。今回も、女性の持つ明るい笑顔、そしてパワフルで生き生きとした活動に強く感嘆しました。また、過去にフェスティバルに参加していない年でも、このフェスティバルのポスターを見ると、なぜか元気をもらうことができたことを思い出しました。きっと、実行委員長をはじめ、委員の方々、事務局の方々、先生方、ボランティアのみなさんの想いがこもっているのでしょう。

今年の活動としては、ウォークとランということでしたが、



お天気にも恵まれ、啓発運動として、とても良いアピールができたのではと思います。ピンクの風船の壁もかわいい団扇もとてもインパクトがあってよかったと思います。

自分は、まだまだ会のことについて理解が浅く、大変皆様にご迷惑をおかけしているかもしれませんが、自分も含めて20代、30代の方々にも、是非関心を持ってもらい、人事と思わずに、まずは乳がん検診を受けてもらいたいと思う気持ちを強く持っています。

少しでも多くの方が自分自身の命を大事にすること、これが、私の願いです。

## ♥ ボランティア参加

坪井 弓子

ピンクリボンフェスティバル2013に参加させて頂き、ありがとうございました。

私は今年度で、3回目の参加でした。今年は風船を、ポンプで膨らますお手伝いをさせて頂きました。(2日後に上腕二頭筋がかなり苦しい事になった事実が、少し悲しい40代です…)活動されている皆様が素敵な方ばかりで、とても楽しく参加させて頂きました。

(大変恐縮なのですが)、実際に受診をした事のない私は非常に反省し、次回は必ずや、茨城県の受診率アップに貢献させて頂きたいと、決意を新たにいたしました。ご存じます。



坂井 望

今回3年ぶりにフェスティバルに参加させて頂き、初めてウォークにも参加しました。当日は天気にも恵まれ、気持ちよく歩くことができました。学生の頃から参加させて頂いていたピンクリボンフェスティバルは第9回を迎え、私自身も学生から社会人となりました。社会人として参加したフェスティバルは少し景色が変わったように思いました。当日イベントの為に集まって下さった参加者の皆さんが、ピンクの風船を持ち5キロの道のりを歩く姿は人々の目を楽しませ、乳がん撲滅の啓発運動へと繋がっていると感じました。乳がん検診の受診率も少しずつ上昇し啓発運動の効果が表れているという話もイベントの中であり、皆さんの意識が少しずつ変化してきているのだと感じることが出来ました。

ピンクリボンフェスティバルは来年10周年を迎えます。記念すべき年のイベントに沢山の方に参加して頂き、そして一人でも多くの方に乳がんという病気の早期発見の大切さを知って頂けたらと思います。

## 写真撮影

島田 知一

中外製薬株式会社 オンコロジーユニット  
北関東営業部 茨城がん専門室

つくばピンクリボンフェスティバル2013大成功おめでとうございます。バルーン作成と写真撮影スタッフとして参加させていただきましたが、スタッフも参加者も一体となったとても熱気のあるイベントでした。私自身もすっかり楽しませていただきました。このようなご機会をいただき本当にありがとうございました。

写真撮影係として、カメラを参加者の皆様に構えると、ファインダー越しに参加者の皆さまの熱気が伝わってまいりました。

ウォークをされている参加者の中には乳がんに罹った方や、御家族に乳がん患者様がいる・いた方もおられると思います。

それぞれ様々な想いを持って参加されているので、その皆様の写真を撮るとなると、ただシャッターを押すだけではいけないのではないかと考えました。

「少しでもいい表情を撮りたい」、という気持ちで接することで撮影に熱が入りました。

少しでも笑顔を、少しでも楽しんでもらおうと、写真を撮る際には撮影自体もピンクリボンフェスティバルの楽しみであると思っただけのように元気にお声掛けしながら撮ることで、笑顔の写真が多くとれたのではないかと思います。

普段患者様には先生方医療従事者を通して間接的に接することしか我々製薬会社の者は出来ません。

このような機会に、乳がんの治療をしながらも、元気にたくましく楽しくウォークしている患者様たちと接することは自身の明日からの仕事に対する気持ちにもとてもプラスとなりました。



佐藤 徹

サノフィ株式会社 オンコロジービジネスユニット オンコロジー営業本部  
東日本営業部 関東第1営業所

今年も「つくばピンクリボンフェスティバル2013」が大盛況で終了しました事を心からお慶び申し上げます。

私は今年もバルーン係を任せられました。今年で3回目のバルーン係です。

今回のフェスティバルは正直申しまして心配事が幾つもありました。

・ヘリウムボンベが無く手動式のアポンプをメインにバルーンを膨らませないといけない事。

・電動式アポンプは20分に1回休ませないといけない事。

更に前々日の天気予報ではフェスティバル当日の天気は荒天との事で…

・濡れたバルーンを簡単に膨らます事ができるのか？

・風でバルーンが飛ばされないか？

等々多くの心配事がありました。

しかしそんな心配事もよそに当日は暑いぐらいの晴天でした。

バルーン係も多くの方々力が合わせて2台の電動式アポンプ・15個の手動式アポンプをフル活用し、見る見る内にバルーンが膨らんでいきました。

終わってみれば、開会式の1時間前にはバルーン1200個は見事にフェンスに飾り付け(?)られておりました。

特に、マイクロバス前で電動式アポンプを操っていたスカウトの女の子の職人的な手さばきは見事なもので、我々手動式アポンプ組が1個バルーンを膨らます間に、3個は膨らませてしまうという実に感動的なものでした。

ただ、バルーンの飾りつけに関して小田様から「美しさが無い。芸術性に欠けている…」と笑顔でのご指摘をいただきました。この件は来年の課題にさせていただきます。

ご参加された方々は、ハートのバルーンを両手にたくさん持って、皆様必ず笑顔でゴールされます。

この小さなピンクのバルーンには、スタッフの乳がん撲滅に対する熱い想いがたくさん詰まっております。その想いが一人でも多くの方々のハートに届き、乳がん検診を受ける原動力になればと思っています。その象徴的な物がこのバルーンだと思っております。

製薬企業の一員として、このような素晴らしい企画に参加させていただき、そして素晴らしい役割をいただき本当にありがとうございました。



## 青と緑とピンクのピンクリボンフェスティバル 2013

山田 光子

雨の予報が上気側に外れて青空がどんどん広がってゆく中、揺れるピンクの風船フェンスが気分を一層盛り上げてくれました。ウォーク&ランのスタート地点はみんなで作り上げた大きなピンクの柱です。事務局総出で仕上げた柱です。植野先生も、森島先生も、多分童心に返られてペタペタとピンクの紙で壁張り作業をした柱です。目に見えて何かが出来て行くというのは楽しい作業でした。(紙製…当日雨降りじゃなくて本当に良かった！)

私にとってフェスティバルの本来の目的以外の楽しみがあります。それは年に一度お会いするボランティアの方々との嬉しい再会です。ウォーク&ランのゴールが緑の芝生の大清水公園でしたので、ランナーが戻られるまでのあいだ、気持良く話をし、ボーイスカウトの子達のゲームを眺め、ピンクリボンクイズの様子をうかがい、と楽しい待ち時間でした。

フェスティバルが終わり、また来年ね！と手を振り合い、来年の再会を約束しました。また来年！



## 受付

野口 恵

心配されたお天気にも恵まれ、当日の朝は爽やかな青空が広がりました。今回のフェスティバルも事前の申し込みは無かったので、どのくらいの方が参加して下さるのか…案じるような気持ちでいたのですが、受付時間になると、小さいお子さんから熟年世代の方まで、たくさんの方々が続々といらっしゃいました。受付中はお一人お一人に、これから始まるフェスティバルを楽しんでいただけるよう、笑顔で対応することを心がけました。参加者の方々の5月の空に負けにくい明るい表情を見ることができ、本当に嬉しく思いました。つくば市民にピンクリボン活動が浸透し、乳がん検診に行く女性が増えることを、あらためて願っております。最後になりましたが、今回の受付設置に於きまして、テント設営をボーイスカウトつくば第3団の皆様、テーブルと椅子の準備を常陽銀行研究学園都市支店の皆様、飲料水とTシャ

ツの配布を株式会社カスミの皆様にご協力いただきました。早朝にもかかわらず、積極的にお働きいただいた皆様に、心からお礼申し上げます。



## 風船・ウチワ・メッセージカード

中野 潤子

つくばピンクリボンフェスティバル2013が無事終わりました。このフェスティバルを行うにあたって、本当に大勢の方々のご尽力と協力を頂き、ありがとうございました。森島実行委員長の元、実行委員の皆様素晴らしい結束と行動力でした。

事務局では、土曜日や日曜日の午後、集まり、計画を立て、作業を行なって来ました。

ほんとうに、皆様の手作りのフェスティバルです。

今年は、色々な制作物を作りました。まず、写真にありますウチワです。これは、紙で出来ていますが、裏には、自己検診のチェックリストが書いてあります。表はピンク、裏は黄色になっており、クイズの答えを掲げるにも使用出来ます。大変好評でした。

今年は、ピンクのハート風船には、ヘリウムガスの不足により、空気を入れました。風船には、「検診を受けよう」と文字入れをしました。形や色がとても可愛くて、毎年とても素晴らしい効果を上げています。

毎年のポスターのイラストとデザインを描いて下さる、筑波大学芸術系学生の山本美希さんのイラスト、筑波大学芸術系の田中佐代子先生のデザインで、メッセージカードも作りました。6種類で色やデザインを変えて、乳がん検診を呼びかける絵葉書になっています。山本さんは、手塚治虫文化賞・新生賞を受賞された新進の漫画家です。色、材質、デザインもとても素晴らしいものに出来上がっています。

これからも、フェスティバルの活動や、乳がん啓発活動に使用して、効果が上がると素晴らしいですね。



## 参加者の声

Pink Ribbon Festival in Tsukuba 2013

- スタッフジャンパーを売って下さい。きれいな色で素敵。着て歩いたら乳がん検診のPRにもなるでしょ。
- 乳がんクイズをやってみて、知らないことばかりだった。今度こそ検診に行かないと。
- 冊子とウチワに載っていた自己検診法を、やってみようと思う。このくらいなら自分にもできそう。
- 家族に迷惑かけないように自分でも検診に行っている。
- 専門家の話で、乳がんは怖がったり、難しがつたりする事じゃないんだなと思った。
- 道路を歩くのかと思って来たが、遊歩道だったので控えめだと思った。
- 乳がんクイズで、こんなにたくさんの方が乳がんになる事を知った。
- ピンクリボンウォークは、良い運動になり、啓発にも貢献できてよかった。



## 取材協力

NHK 水戸放送局  
土浦ケーブルテレビ株式会社 J:COM 茨城  
財団法人研究学園都市コミュニティケーブルサービス (ACCS)

## 参加データ

参加者総数 409 名  
ウォーク参加者 374 名  
ラン参加者 35 名

ボランティア参加者 87 名

## 実行委員 (あいうえお順)

赤塚 信子 森の会 - 筑波メディカル・ピンクリボンの会  
五十嵐徹也 筑波大学附属病院長  
井口 研子 筑波大学医学医療系乳腺甲状腺内分泌外科  
池田紗智恵  
池田 達彦 筑波大学医学医療系乳腺甲状腺内分泌外科  
石川えり子 森の会 - 筑波メディカル・ピンクリボンの会  
伊東 孝子 たんぽぽ会  
植野 映 筑波メディカルセンター  
上野 修 歯科医師  
梅本 剛 筑波メディカルセンター病院 乳腺科  
太田代紀子 おおたしろクリニック  
大野 純子  
大山 公一 (一財)茨城県メディカルセンター  
小田 陽子 筑波大学医学医療系乳腺甲状腺内分泌外科 非常勤職員  
小野 幸雄 (財)筑波メディカルセンターつくば総合検診センター  
貝塚 広志 貝塚みずき野クリニック  
春日 晴夫  
川上 清 茨城県ウォーキング協会  
鯨岡 結賀 筑波記念病院放射線科  
小仁所圭子 石岡市医師会病院  
坂井 朋夫 東京医科大学茨城医療センター放射線科  
佐々木京子 筑波メディカルセンター病院 乳腺科  
鈴木 武樹 取手市医師会取手北相馬保健医療センター医師会病院  
鈴木 充 (一財)茨城県メディカルセンター  
高木 聡 (財)日立メディカルセンター  
高久 真理 大和ハウス工業株式会社 / イースつくば イースつくばオフィス  
高村 祐子 茨城県立医療大学保健医療学部看護学科  
竹原 陽子 株式会社カスミ  
辰見 正徳 (財)茨城県総合健診協会  
田中佐代子 筑波大学芸術学系  
田中 優子 筑波大学医学医療系乳腺甲状腺内分泌外科  
東野英利子 筑波メディカルセンター つくば総合健診センター  
永田 修 永田歯科医院  
中野 潤子 くるみの会  
根本 礼子  
野口 恵 森の会 - 筑波メディカル・ピンクリボンの会  
原 尚人 筑波大学医学医療系乳腺甲状腺内分泌外科  
坂東 裕子 筑波大学医学医療系乳腺甲状腺内分泌外科  
平井 理心 筑波大学附属病院 医療メディエーター  
文 由美 つくばセントラル病院外科  
前島 朋子 前島レディースクリニック  
前島 正基 前島レディースクリニック  
水谷 理紗 筑波大学医学医療系乳腺甲状腺内分泌外科  
光畑 桂子 筑波メディカルセンター つくば総合健診センター  
宮崎満美子  
森島 勇 筑波メディカルセンター病院 乳腺科  
山田 光子 茨城県つくば美術館内 ミュージアムショップ a  
山田 陽子 森の会 - 筑波メディカル・ピンクリボンの会

